

## 「高蔵寺どんぐりs」2024年度定期総会開催 生き甲斐と活気あるまち目指し前進を

「高蔵寺どんぐりs」の2024年度定期総会が、5月26日「グルッポふじとう」で開かれ、新年度活動方針など全議案を承認した。人事では堀内泰理事長らの再任と梶田美紀理事、眞埜豊監事の新任が決まった。

### 2024年度活動方針 (堀内泰理事長)

世界は、残念ながら相変わらず戦争と紛争で明け暮れている。ロシアのウクライナへの侵略、中東ガザ地区でのテロと殺戮の泥沼化等、枚挙にいとまがない。ただ、このような厳しい環境の中でも、人と人の繋がりを大事にし、本会の基本方針である「生き甲斐と活気あふれるまちづくり」を目指し、さらに前進できるような活動を行っていく。

多くの方が、興味が持て参加したくなるイベントを紹介していきたい。中でも高森山公園に絡めた活動は、生き甲斐づくりの一端を担うものとして、今期も活動の中心に据えたい。今年2月に同公園は、環境省「自然共生サイト」(COP15でコミットメントしたOECM=陸海で新たに生物多様性に資する場所を30%増やす場所)に認定された。春日井市では初めてである。公園緑地課とはアダプト制度締結の上、高森山での作業内容・役割の明確化、高蔵寺まちづくりまちづくり株式会社やニュータウン創生課とは森づくりの学習会、協働整備、ボランティア人材の発掘等、様々な面で行政と協力関係を築いた点が認定に結びついた。加えて、昨年より高森台小学校の児童達と一緒に行ったイベントや整備活動も評価された。環境省ホームページにも載り、全国的に紹介された

同公園の未来プランの実現は、今期、市の予算に実施設計費として3千5百万円が織り込ま

れたことや近郊の社会貢献企業の協力等で一歩ずつ近づいている。因みに、当公園で棲息が確認された動植物は、貴重種を含め600種余にもなる。しかも、調査のたびに増えつつある。

また、本会活動の柱である生活相談会やどんぐりsカフェは、まちの活性化に繋がる不可欠なイベントである。相談会では身近な悩みや困り事に耳を傾け、カフェでは幅広く暮らしに役立つ講演会やセミナー及び楽しく交流するイベントを催す。これらの企画により、多くの住民が少しでも元気になれるようにしたい。

**梶田美紀新理事の話** みなさんと高森山を歩く時間が楽しく、また学びです。私自身も高森山の魅力を発信できるようにたくさん足を運んでがんばります！

### 郷土に伝わる「ちまき作り」に挑戦

「郷土に伝わる端午の節句のちまきを作ろう」と題して、今年度第一回目の「どんぐりsカフェ」を6月29日(土)坂下公民館で9時~12時に開催いたします。ご参加をお待ちします。

### すまい困りごと無料相談

電話または直接面接会場にお越しください  
☎080-5297-8956 (長谷川)  
面接相談会日・会場  
6月9日(日)グルッポふじとう  
7月14日(日)グルッポふじとう  
(いずれも13:30~15:30)  
○当会会員の一級建築士が相談に応じます。

### ハート・ほっと・ルーム

●開催日・会場  
6月23日(日)養楽福社会たかもり  
7月28日(日)養楽福社会たかもり  
=春日井市高森台5-6-6  
(いずれも13:30~17:00)  
参加費:無料  
連絡先:☎090-6330-4393(浪川)

## 高蔵寺駅北口前の再整備方針案 市民と対話不在に疑問

詳細が不明だった高蔵寺駅北口再整備案が、4月上旬に「高蔵寺駅北口駅前広場再整備方針」として春日井市のホームページに公表された。内容は、ニュータウンの将来の方向付けする「リ・ニュータウン計画」の趣旨から始まり、始めに「中間案」が提案され、次の「見直し案」に至るまでの経過や計画案の内容が詳細に書かれている。しかし残念なことに、そこに提案されている「整備方針案＝見直し案」は、既設のリニューアルの範囲にとどまっていた、これといったアイデアの乏しい案になっていると思われる。今回の問題点は、以前公表された中間案とのギャップがあまりにも大きく、それにもかかわらず、このような案に至る途中経過がまったく市民に知らされず、市民との対話や公聴会も開催されないまま、いきなり公表されたことだと思う。行政と市民、市民と市民のコミュニケーションの場を設けて、単に反対意見（ラウドマイノリティ）が多かった？ という理由で

極端に振れるのではなく、長所、短所をバランスよく取り入れ、熟議して策定された計画案こそが市民に受け入れられ、より良い、魅力ある計画案になると考えます。（長谷川 光男）

### 活き活き楽農会新会長に石川さん 野菜づくり、まちづくりに挑む

玉野地区で野菜づくりと環境保全活動を続けている「活き活き楽農会」の堀内泰会長が4月に勇退、石川彰子さんが新会長に就任した。

**石川彰子新会長の話** 楽農会では佐藤美保子さんのご指導の下、有機野菜を作っています。畑や懇親会で情報交換をして挑戦の繰り返しです。また「美しい玉野を守る会」と共に、地域の環境保全を担う意識も高く、清掃活動では会員が交流し、農地の維持は野菜づくりの活発化に繋がり良い循環を生んでいます。これらの活動を通し、私は楽農会のある玉野地域で根を下ろし、農を仕事にしたいと農業見習いを始めました。人生の1ピースである楽農会も大切にしていきたいと、この度、堀内会長の後任を引き受けさせていただきました。15年の歴史を大切にしつつ、野菜づくりから人づくり、まちづくりへと活発な風土醸成に取り組んでいきます。

### 私の朝・昼・晩

#### 木工ろくろに魅せられて

60歳の定年を迎えたら、その後何して楽しもうか？ 定年前にふとそんなことが頭に浮かんで、興味のある本を買い込んだ。昔から興味があった、木工ろくろに結局いきついた。方式は、日本式、西洋式とあり、簡単に覚えられるのは西洋式に分があった。一日体験教室に参加し、作成を一通り経験するも、何でも奥が深い、一本の刃物でも刃物の使い方いろいろな方法があり、刃物の使い方が悪いのを、ペーパーでカバーしようとする、全体の形が変わってしまう、作品にならない。再度先生の所へ行って、製作状況を後ろから眺め、疑問をぶつけ、そして自分の疑問を少しずつ解消させた。何十回かそれを繰り返し他人に渡しても恥ずかしくない作品が徐々に出来上がってきた。（その間2～3年はかかってしまったかな）。

その後、先生から「もっと上達するには販

売しなさい」の一言で各地で開催されるクラフト展に出展、販売をすることにした。販売から2～3年すると行った先々でリピーター客が現れる「去年買った〇〇、重宝してるわよ!」「今度こういうの作れない?」。詳細を聞いて自分の技量の広がりにつなげる。お客との対話の楽しさであり、製作の喜びである。さらに、出展した先々で1～2名の方から「私もこういうことがしたい」と相談を持ち掛けられることがしばしば。材料の仕入れ先、購入する木工旋盤の機能、刃物、塗料etc。だいたい1時間はおしゃべりすることになる。最後に付け加える二言。「木が好きでなくては長続きしませんよ」「金儲けにはなりませんよ」で話を締めくくる。自分なりに考えて、工夫して、物を作り上げる楽しさ、そして木目が大好きで始めた木工であるが、今77歳、いつまでやれるのかな・・・? 体力面と気力面が最近やや気になってきた。（加藤 善夫）